

## デジタル・シティズンシップ (Digital Citizenship)

スマートフォン Smartphone いわゆる「スマホ」は、2007年 iPhone 発売そして 2008年 Android 端末発売以降に世界的に広く普及してきました。

そもそも「スマホ」とは、モバイル向けのオペレーティングシステムを備えた携帯電話のことです。簡単に言うと「ネットワークに接続されたコンピュータ」です。技術革新により「いつでも、どこでも」ネットワークが超小型端末で快適に使えるようになるとともに、最近ではカメラ機能の進化も著しく、高画質の映像等も容易に扱えるようになり、素晴らしい（生活になくてはならない）ツールとなっています。

また、「スマホ」の普及によって、SNSや生成AIなどの新しいテクノロジーも次から次へと進化を続けています。最近では、我々の生活する「リアルな（現実）空間」とネット上にある「バーチャルな（仮想）空間」が存在し、この2つの空間をつなぐ「AR（拡張現実）」といったテクノロジーも身近になってきました。

これまで、このようなテクノロジーを安全に使いこなすために日本の学校教育では、情報モラル教育として「こんな危険があるよ！約束を守らないと危ないよ！」という、リスクとルールを結び付けた「抑制」する教育を中心に行ってきました。しかし、最近では、「きちんと使い方（リスク）を知った上で、デジタル社会で自分の能力を発揮し、より良い未来社会づくりを担っていきましょう」という「デジタル・シティズンシップ教育」へのシフトがはじまっています。

つまり、デジタル社会でより良く生きる「新しい学び」を目指し、ダメダメの抑制中心の「禁止」から「子ども主体」の考える教育へのシフトがはじまっているということになります。

しかし、「デジタル・シティズンシップ教育はまだまだ認知度・理解も低い」という現状が日本の社会にあります。学校教育でも「行動を起こしている」学校とそうでない学校が・・・。

このような視点から、本日午後にセンセイ（教育関係者）では無く、デジタルリスク管理のコンサルティング業務にあたる渋谷区内に東京本社のある事業者「株式会社ジールコミュニケーションズ」<https://zeal-c.jp/> さんをお招きして、デジタルリスクを管理する最前線の専門家から直接お話をいただく素晴らしい機会となりました。（昨年度に引き続き無償にて講演をいただきました！）



ネットワークでのトラブルと対処法について具体的にお話をいただきました。

デジタルは日常であり、すでにデジタルツールは生活の一部となっています。

このような視点から考えると「デジタル・シティズンシップ」は学校だけで育てていくものではないと捉えています。各家庭でも（社会全体で）「ネットは危ない」というだけでなく、危険性は十分に子どもと共有しながらもデジタルツールをどう使っていくかを共に考える時間を持つ必要があると強く感じています。（私も親ですので・・・）

各家庭で「デジタル・シティズンシップ」を体系的に捉えて、きちんと子どもに教えることは難しいと思いますが、この考え方の一端を知って、子どもと共に考える時間を共有することが大切であると思います。今日の講演について、各家庭で話題にしていいただければと思います。

また、各家庭でデジタル・シティズンシップを学ぶことのできる教材として、米国 Common Sense Education 財団が制作したデジタル・シティズンシップ教材動画に日本語字幕をあわせた教材がネット上に公開されています。（国際大学 豊福晋平 准教授によるサイトです。）海外ではデジタル・シティズンシップの考え方がスタンダードとなっている国も多くあります。

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLNoOLCJNPgDdox0vBJ-V4FMyDLWUJob829>